

解釈 と 表現

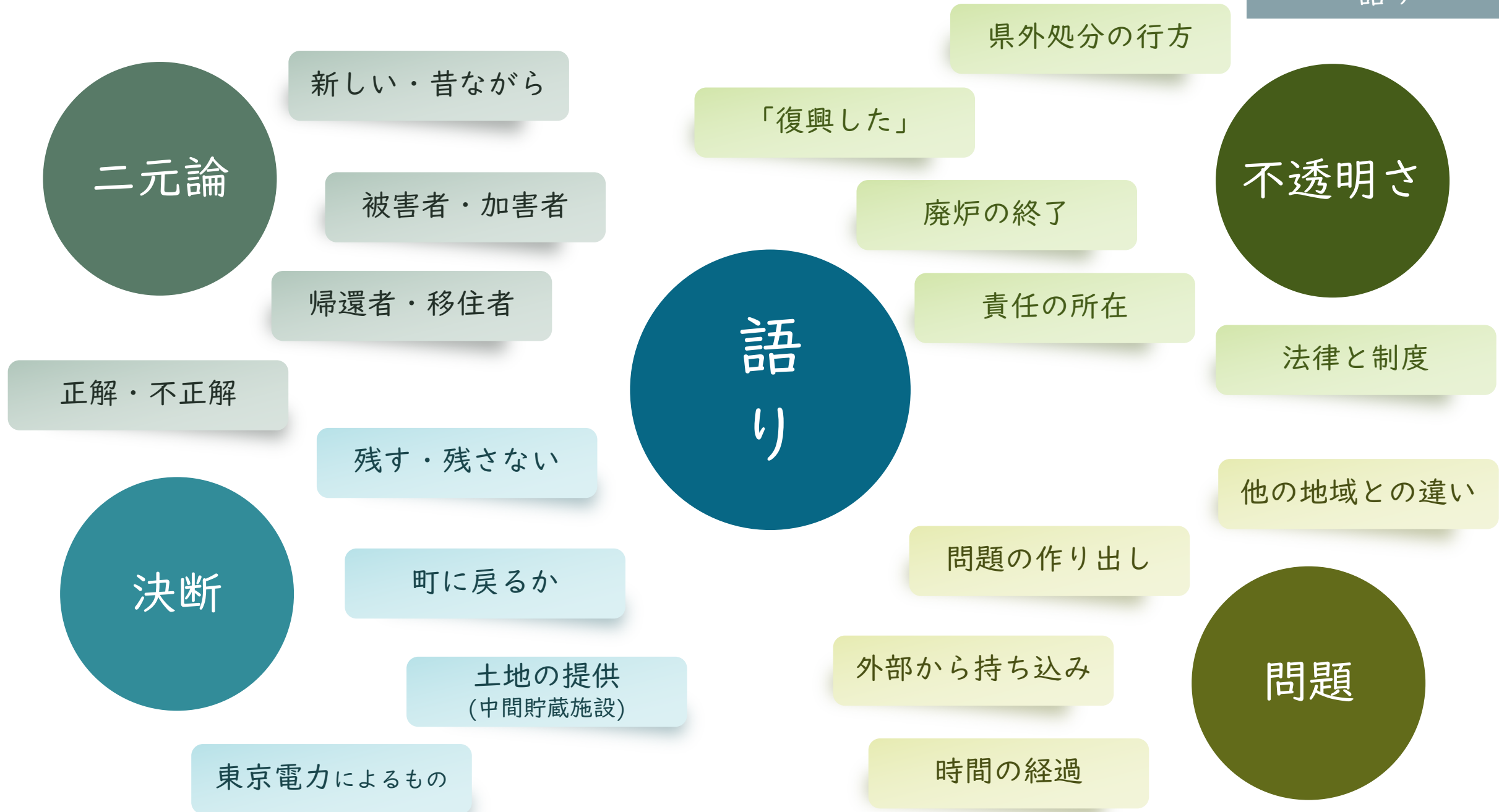
2026年浜通り放射線研修

9月 双葉C班

大島	かれん
阿部	友哉
近藤	理玖
北崎	琴子
清野	健太郎
服部	裕斗

解釈と表現

- 語り
- 問題
- 決断
- 不透明さ
- 二元論



様々な立場の語り手＝表現者

行政から住民へ

アンケートの実施方法

メディアから世間へ

報道の仕方

視察の説明者から私達へ

説明の仕方の変化

語られるという風化

以前

本社の人
謝罪
一言一句間違えず
確定事項

今回

語りやすさ

福島県出身者
個人の意見

試料採取から測定

目的

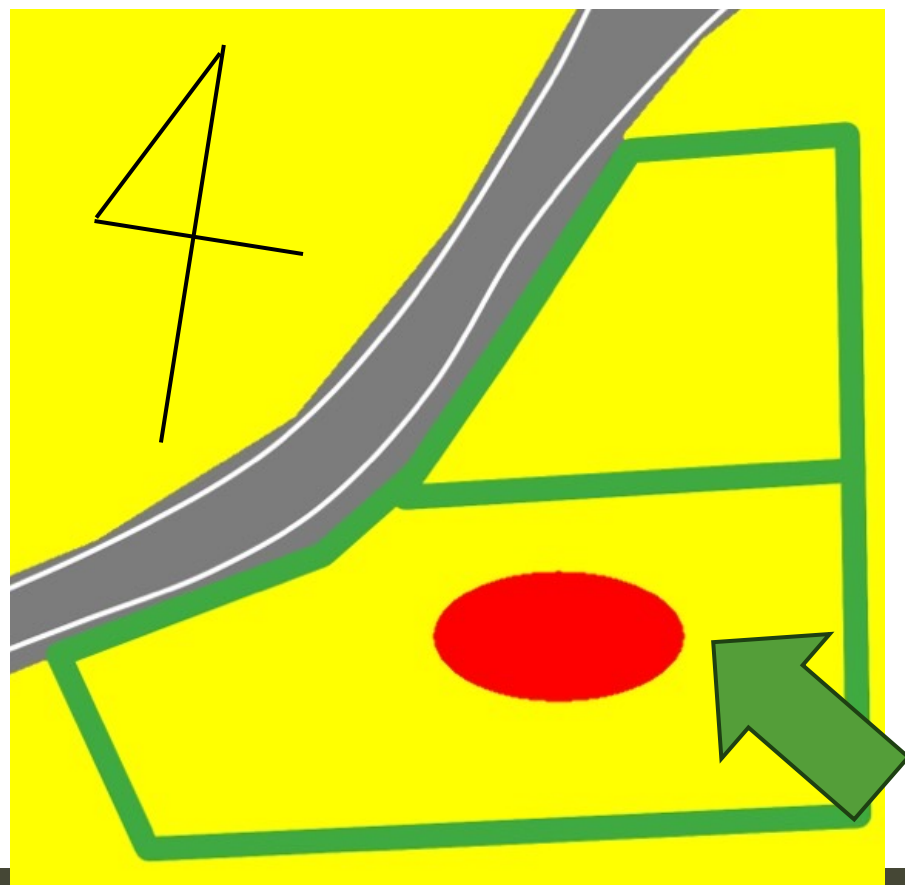
：イネに近縁な雑草, タイヌビエの放射能濃度を測定して稲作が可能であるか判定する

仮説

：イネとタイヌビエの移行係数が近ければイネを植えなくても、稲作ができるか判断する基準にできる

方法

場所：福島県双葉郡双葉町長塚観音堂の元田んぼ(左下図)にて調査



シンチレーションカウンターによる
空間線量の測定(5cm, 1m高)

NaI検出器による穂・茎に分けた
タイヌビエの放射能濃度測定

NaI検出器による土壌の放射能濃度測

タイヌビエ群生地

結果&考察

植物での放射能濃度の値が負の値となった

→検出限界

bkgが土だから正しい値が測定できなかったと考察

→bkgを空気としても同様の結果

⇒①より放射能濃度の高い

土壌の場所で測定する

②ゲルマニウム半導体検出器

などのより高精度の機器を

用いる

Bq/kg	bkg(±)	bkg(空気)
土壌	545 ± 24	
穂	-47 ± 14	-53 ± 8
茎	-166 ± 28	-172 ± 26

問題

なぜ、観音堂付近の線量を調査したのか？



双葉にホットスポットがあるかもしれないという不安

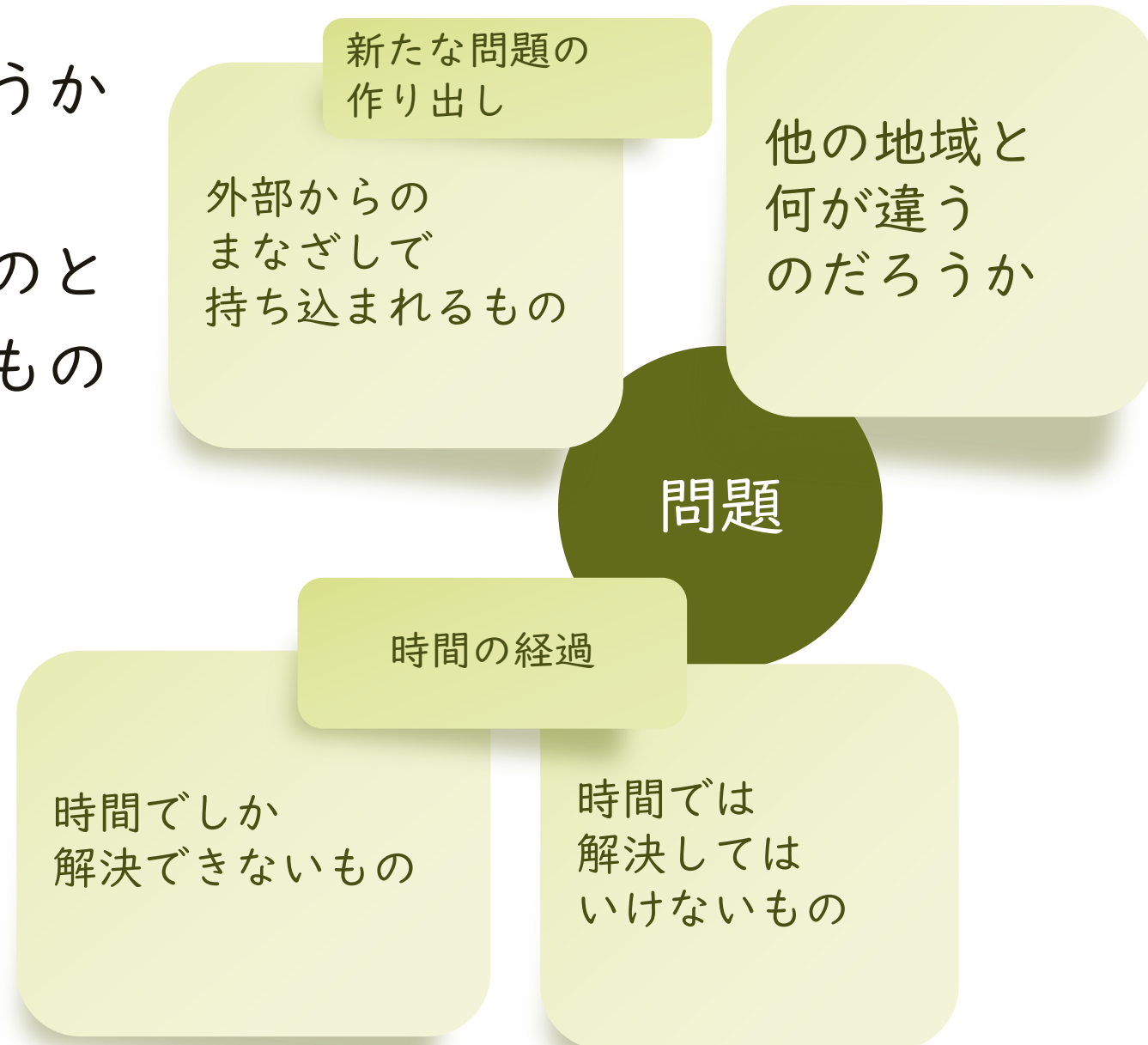
他にも…

- ・インフラの不足 (住民)
- ・戻ったけど新たに引っ越してきたような感覚 (住民)
- ・戻りたいけど戻れない (避難者)
- ・2045年までに除去土壌等の最終処分 (環境省)
- ・2051年までに福島第一原子力発電所の廃炉 (東京電力)



立場によって問題は異なる

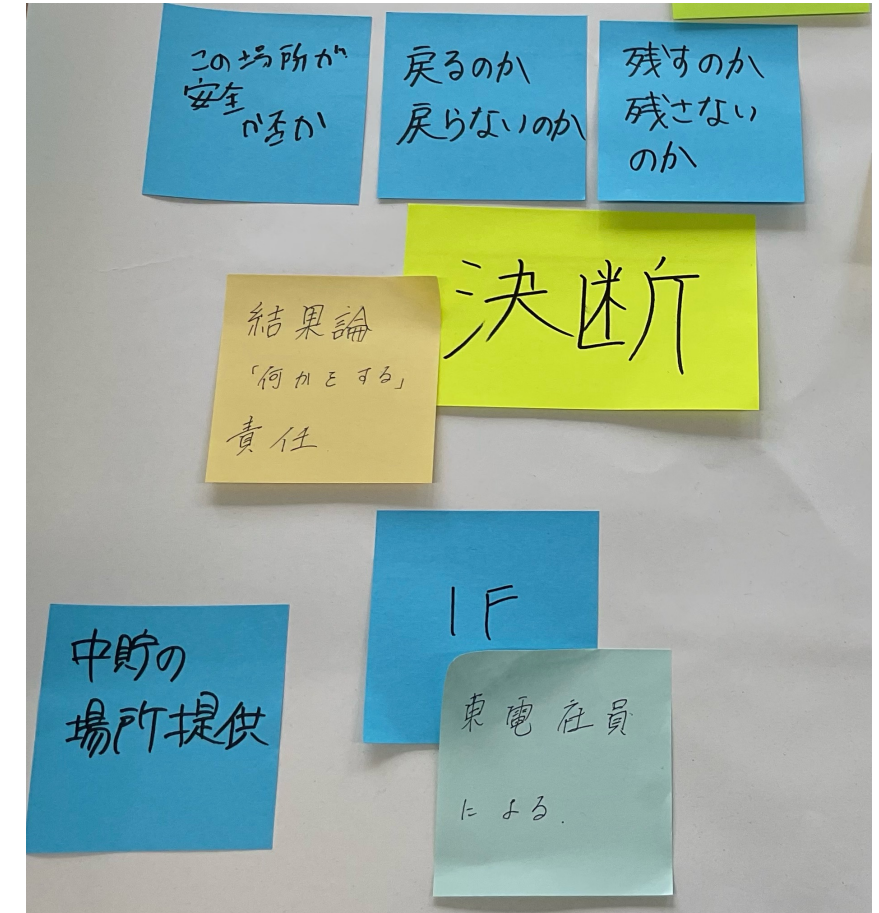
- ・ 他の地域と何が違うのだろうか
- ・ 時間でしか解決できないものと
時間で解決してはいけないもの
- ・ 外部からのまなざしで
新たな問題が持ち込まれて
いるのでは？



決断

例えば...

- 安全か危険か
 - 戻るのか戻らないのか
 - 残すのか残さないのか
-
- 決断の責任の評価は結果論でしかない
 - 誰が責任を持ち決断するのか



不透明さ

「目に映る」もの→それ自体がぼんやりと見えて（見せられて）いる可能性

そもそも不透明さとは何か？

責任や決定プロセスが見えづらい

なぜ県外処分なのか？

IF、中間貯蔵施設の跡地

法律による制限

→明確にされない点が多い

誰が関与したか・するかの不明瞭さ

東京電力？

国？

町？

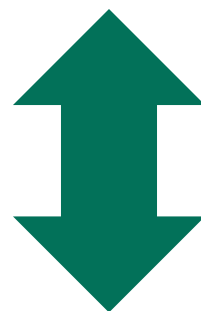
住民？

→関係者の重層的な関わりによる複雑化

二元論を用いた表現

メリット

- ・ 対立構造に落とし込むことで理解しやすい
- ・ 意見を表明しやすく、議論を行いやすい



デメリット

- ・ 実際は2つの要素に落とし込めることだけではない

二元論

「若い人」と「お年寄り」

「新しいまち」と「昔ながらのまち」

人が増えるべきか否か

危険と安全

幸福か不幸か

帰還者と移住者

被害者と加害者

原発賛成と反対

「正解」と「不正解」
それさえも二元論であり
どちらもでない

